

鹿児島県奄美パーク 事業報告書

2013 Leaf



目 次

I	鹿児島県奄美パーク概要	・・・1
II	平成25年度の事業実績について	・・・2
III	奄美群島日本復帰60周年を迎えて	・・・3
IV	奄美の郷企画事業	・・・4
1	季節感(年中行事)を取り入れたイベントの開催	
	(1) あまみっ子フェスタ (2) 第7回奄美パークわらベシマ唄大会	
	(3) ネリヤカナヤフェスタ (4) サマーコンサート (5) フユウンメコンサート	
	(6) 初春唄あしび (7) 奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～	
2	奄美の郷ライブステージ	・・・9
	(1) キッズダンスフェスタインパーク (2) 初夏うた遊び (3) しまうたミニライブ	
	(4) 沖永良部島 伝統芸能の夏 (5) パフォーマンスバトル2014 (6) 初花月ライブ	
3	文化講演会	・・・12
4	わきゃステージ in パーク事業	・・・13
	(1) ハートフルパーティ♥ (2) 島唄長唄会イベント	
	(3) 隆柳勘大と社中の舞・日置幸夫&わらべんきや (4) 汝きや我きや島唄しょーろ	
	(5) 島唄あしび (6) チカ ハワイアン フラ ホイケ (7) 永田将哉ステージ	
	(8) でい・せんばあ・ライブ フリマ (9) 大高芸術祭・吹奏楽部ミニコンサート	
	(10) スプリングコンサート	
5	その他自主事業	・・・17
	(1) 奄美群島日本復帰60周年記念ステージ「つなぐ島々」	
	(2) 奄美群島日本復帰60周年特別ライブステージ～民謡日本一唄者の共演	
	(3) 文化の日イベント (4) 第7回子どもクリスマス会 (5) 奄美パーク新春寄席	
	(6) 春休み小中学生以下限定抽選会 (7) けんむんクイズラリーミッション	
	(8) 夏休み小中学生以下限定抽選会 (9) 冬休み小中学生以下限定抽選会	
	(10) 奄美群島日本復帰60周年記念「あの日の記憶」パネル展	
	(11) 県立大島高等学校モザイクアート展	
	(12) 第86回選抜高等学校野球大会大島高等学校応援パブリックビューイング	
6	共催事業 第3回ケンムンふえすた「交流イベント」	・・・24
V	田中一村記念美術館企画事業	・・・26
1	奄美関連作家展及び招待作家展	・・・26
	(1) 村上光明写真展【神々の島々・奄美】-シリーズ黒潮街道-	
	(2) 奄美・横浜・沖縄合同美術展「水の道・海の道・美の交流展」	
	(3) SHOBUSTYLE～美しい行為から生まれるカタチ～ (4) 「島のゆしぐとぅ」書道作品展	
2	第60回記念県美展 奄美関連作家展	・・・28
3	田中一村写生の世界展	・・・29
4	田中一村記念スケッチコンクール作品展	・・・29
5	第12回奄美を描く美術展	・・・30
	(1) 本展 (2) 喜界町巡回展 (3) 「第12回奄美を描く美術展」入選・入賞作品	
6	その他企画展	・・・34
	(1) 龍郷町立小学校・中学校図工・美術学習発表展	
	(2) 大島高等学校芸術祭 書道部・美術部合同作品展	
7	芸術文化講演及び美術講演	・・・35
	(1) 工房しょうぶの美意識エンパワメント2013	
	(2) 田中一村と木下貴雄の高潔な生き様と作品世界	
8	一村出前講座	・・・36
9	創作体験教室他	・・・36
	(1) 創作体験教室 楽しい色紙絵「奄美を描こう」	
	(2) 夏休み子どもワークショップ「ガジュマルのエネルギーを感じてアートしよう」	
	(3) 夏休み親子「泥染体験」(4) 田中一村ちびっ子鑑賞会	
	(5) 田中一村来島55周年記念作品鑑賞会	
	(6) 創作体験教室「人物画講座」	
VI	各種イベントポスター	・・・39
VII	奄美パーク応援隊について	・・・45

I 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター、人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2 設置者 鹿児島県

3 開園年月日 平成13年9月30日

4 指定管理者 奄美群島広域事務組合

5 園長兼館長 宮崎 緑（千葉商科大学政策情報学部長，NHK「NC9」初の女性ニュースキャスター）

6 園地面積 約77,000㎡

7 総事業費 約78億円

8 施設の概要

(1) 奄美の郷（延べ床面積約3,200㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

○総合展示ホール，奄美シアター（有料）

○アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

(2) 田中一村記念美術館（延べ床面積約2,490㎡）

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

○常設展示室，特別展示室（有料）

○企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶・ミュージアムショップ

(3) 一村の杜（面積7,000㎡，平成19年7月20日完成）

6つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽。それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

(4) その他の施設

○多目的広場（約3,780㎡），野外ステージ，展望台，駐車場（約240台）

9 観覧料金 共通観覧料：一般600円（20人以上の団体は480円）

高・大学生400円（同320円）

小・中学生300円（同240円）

※平成25年度末現在の料金

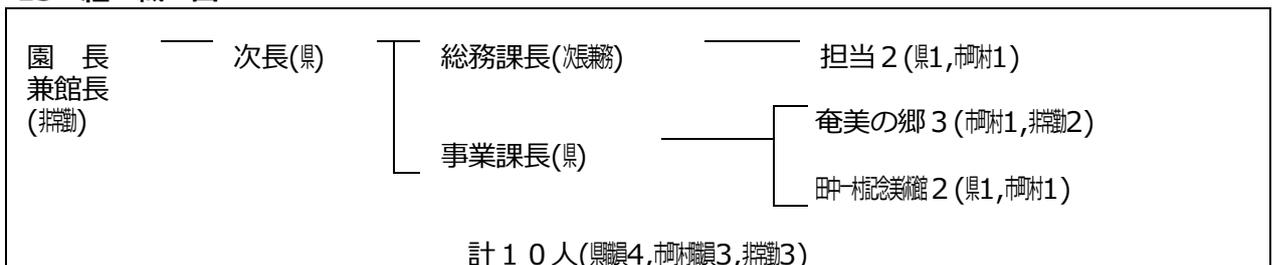
10 休園日 毎月第1，第3水曜日（祝日の場合は翌日）

（4/29～5/5，7/21～8/31，12/30～1/3は開園）

11 開園時間 9：00～18：00（7月，8月は19：00まで）

12 入園者数 平成26年3月末現在 延べ1,815千人

13 組織図



II 平成25年度の事業実績について

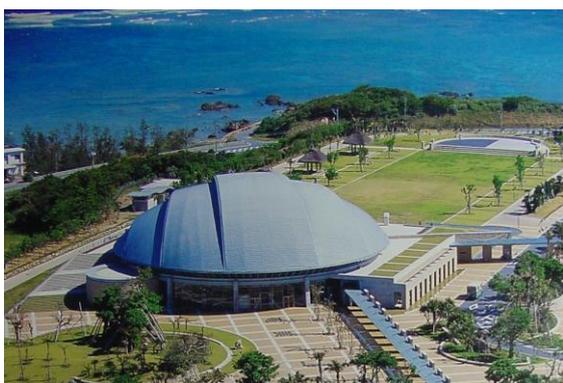
「奄美パーク」は、奄美群島の観光拠点施設の一つとして、また、奄美群島に居住する方々の交流等を目的に、奄美の自然、歴史、多様な文化を紹介する「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」を中核に平成13年にオープンしました。平成26年3月末現在、入館者は約182万人となりました。

「奄美の郷」では主にイベント広場においてシマ唄、伝統芸能、踊りなどで構成するイベントを開催し、「田中一村記念美術館」では常設展示のほか、「企画展示室」において奄美関連作家展、招待作家展、奄美を描く美術展、創作体験教室などを開催しています。

特に平成25年度は奄美群島日本復帰60周年記念の年にあたり、「奄美の郷」では日本復帰60周年記念ステージ・特別ライブステージを、「田中一村記念美術館」では企画展・講演会のほか、奄美群島の各島々で、宮崎緑園長による一村出前講座などを開催しました。

これらの事業の実施により、奄美の多様な文化や自然等の魅力を観光客に紹介するとともに地元の方々の交流も図りました。

平成26年度以降も、地元の皆様とともに歩いていく奄美パークを目指し、皆様からの助言や力添えをいただき、奄美・琉球の世界自然遺産登録を見据えた事業も展開していきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奄美の郷



田中一村記念美術館



奄美の郷・総合展示ホール（シマの道）



田中一村記念美術館・特別展示室

Ⅲ 奄美群島日本復帰60周年を迎えて・・・

奄美群島日本復帰60周年を迎えた平成25年度は、60周年という記念の年しかできないイベントの開催や、通常とは一味違う展示会の開催に努めてまいりました。

これからも、復帰当時の先人達の思いと行動力を語り継ぎ、感謝と敬意を込めて、奄美の観光振興への貢献、個性あふれる地域文化の継承、人的交流の促進、そして、過去から現在、未来へとつなげられるよう努力してまいりたいと思います。 奄美パーク園長 宮崎 緑



「奄美群島日本復帰60周年記念事業」一覧

開催日, 期間	事業名 (※奄美群島日本復帰60周年記念の冠は省略)	開催場所
平成25年 3月31日(日) ～4月21日(日)	村上光明写真展 【神々の島・奄美】-シリーズ黒潮街道-	田中一村記念美術館 企画展示室
4月27日(土) ～5月19日(日)	奄美・横浜・沖縄合同美術展 「水の道・海の道 美の交流展」	田中一村記念美術館 企画展示室
6月9日(日)～ 6月30日(日)	県美展 奄美関連作家展	田中一村記念美術館 企画展示室
7月7日(日)～ 7月28日(日)	工房しょうぶ作品展 SHOBUSTYLE～美しい行為からうまれるカタチ～	田中一村記念美術館 企画展示室
7月25日(木)	木下貴雄記念講演会	奄美の郷 屋内イベント広場
7月28日(日)	第3回ケンムンふえすた 沖縄(やんばる)と奄美の妖怪交流	奄美の郷 屋内イベント広場
8月11日(日)～ 9月8日(日)	没後十年「孤高の画家木下貴雄遺作展」	田中一村記念美術館 企画展示室
9月15日(日)	ステージ～つなぐ島々～	奄美の郷 屋内イベント広場
11月3日(日)	一村出前講座	和泊町民体育館
11月10日(日)	特別ライブステージ「民謡日本一唄者の共演」	奄美の郷 屋内イベント広場
11月17日(日)	奄美パーク文化講演会「さかなクンのギョギョッと びっくりお魚教室! in 奄美パーク」	奄美の郷 屋内イベント広場
11月23日(土)	一村出前講座	徳之島町生涯学習センター
11月30日(土)	一村出前講座	与論町 砂美地来館
12月22日(日)	一村出前講座	喜界町自然休養村 管理センター
12月22日(日)～ 平成26年1月19日(日)	「田中一村 写生の世界展」	田中一村記念美術館 企画展示室
12月23日(月)	第7回 奄美パーク子どもクリスマス会	奄美の郷 屋内イベント広場

IV 奄美の郷企画事業

1 季節感（年中行事）を取り入れたイベントの開催

（1）あまみっ子フェスタ

日時：平成25年5月4日（土）13:30～15:30

場所：屋外多目的広場 入場者数：約320名

内容： ステージの最初は、コメディパフォーマーKibitoによるマジック、中国ゴマ、バルーンアートなどを織り交ぜたステージで、子どもから大人まで楽しむことができ、笑いを誘う演出内容によって観客を魅了した。

続いて、奄美の小中学生のユニットD★GIRLSは、奄美の民謡をアレンジした曲や島への想いをつづった曲をダンスとともに披露した。その後、多目的広場後方で、奄美手熟師会による竹とんぼ、ナリ細工などの親子手作り教室のほか、奄美市レクリエーション協会による風車、バルーンアート、紙トンボづくり、お手玉、コマ回しなどの昔の遊び、ニュースポーツと様々なワークショップが催され、親子連れや友人同士の来場者が、いきいきと製作や遊びに夢中になっていた。

ステージ後半は、大声大会を実施し、子どもたちの「お父さん大好き」など親へのメッセージを叫ぶ場面もあり、会場は和やかな雰囲気となった。

最後は、ハピカンによるダンスレクリエーションを行い、子どもと親と一緒に音楽に合わせて身体を動かした後、じゃんけんゲームによるプレゼント配布を行い閉会した。来場者からは、「外で遊んだり手作りする機会が少ない昨今なので、このようなイベントをもっと企画してほしい」という声も聞かれた。



（2）第7回奄美パークわらベシマ唄大会

日時：平成25年5月5日（日）9:30～15:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約320名

内容： 奄美の将来を担う子ども（あまみっ子）たちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともに技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

参加者は、小学校低学年の部に21名、小学校高学年の部に23名、中学生の部に14名と総勢58名。昨年度に比べ5名増え、熱戦が繰り広げられた。

平成24年度各部門優勝者3名（俊山里穂さん・岩崎日向子さん・藤田晶さん）ほかをゲストに、また、特別ゲストに森永あすかさんを招いたシマ唄の披露もあり、来園者は楽しんでいった。なお、出場者達の地域は前年度と大きな違いはなく、イベント参加者は、前年度に比べて、約80名増の320名であった。



(3) ネリヤカナヤフェスタ

【開催期間：平成25年7月14日（日）～9月1日（日）】

①オープニングイベント

日時：平成25年7月14日（日）13:30～15:15

場所：屋内イベント広場 入場者数：約340名

内容：平成25年7月14日（日）から9月1日（日）までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントを行った。

県立大島北高等学校吹奏楽部による演奏で始まり、吹奏楽の音色に合わせて、奄美看護福祉専門学校介護福祉科の生徒たちが、手話を交えて歌や踊りを披露した。

ハーラウ オ レファ オ カラニ 奄美大島校のフラダンスがステージを優雅に飾り、フィットネススタジオ サンビームによるリズムカルで元気なダンスへと続いた。また、ASA 奄美スポーツアカデミー重村俊介氏によるレクレーション体操では、同氏のリードの下、会場全体が一つになって、「グーチョキパー体操」で体を動かしながら来場者が楽しんでいた。

再び、フラダンスを披露した後は、佐仁八月踊り同好会による「佐仁の八月踊り」がラスト演目で、今回のステージが初披露という「アッチャメグァー」は、女性がお皿を手にして、カスタネットのように音を鳴らしながら踊る場面もあるなど、三味線踊りでオープニングイベントを飾って締めくくった。



②展示関係

期間：平成25年7月14日（日）～9月1日（日）

場所：アイランドインフォメーション及び奄美シアター付近

期間中の入場者数：10,717名

内容：奄美シアター付近では、プロダイバー古田直基さんから借用した「奄美の海の写真」の展示と「海中映像（珊瑚の産卵）」を放映し、アイランドインフォメーションコーナーでは、里岡伸夫さんが趣味で製作している夜光貝を加工したアクセサリーや「創作貝細工」を展示したほか、地元住民から借用した「夜光貝加工品」を展示した。

また、各アイランドインフォメーションガラスケースには、奄美海洋展示館から借用した奄美群島内の伝統行事等を貝殻で表現した「貝細工」を展示した。

フェスタ期間中は夏休みでもあり、多くの親子連れなどが興味深そうに鑑賞している光景が見られた。



③夏休み親子自然教室（リーフの生き物探し）

日時：平成25年7月21日（日）12:00～14:00

場所：屋仁海岸（奄美市笠利町） 参加者数：20名

内容： 大潮にあたる時間帯に奄美市笠利町北部に位置する屋仁海岸のリーフへ出かけ生き物探しをした。

元日本貝類学会会員・九州貝類談話会会員・奄美の自然を考える会理事の有馬康文氏を講師に招き、生き物を探す時の注意点から始まり、探し方や生き物についての丁寧な説明を受けながら、潮が上がってくるまでの2時間を過ごした。

ヤドカリが特に多く、クモヒトデやシャコ、ハゼやウツボ、カニ等の生き物との出会いがあった。

島内南部の加計呂麻島や大阪からの観光中の参加者など大人9名、子ども11名が参加し、網やバケツ等を持参し採集を楽しんでいた。



④夏休み親子手作り教室（貝殻とサンゴで生き物を作ろう）

日時：平成25年8月4日（日）14:00～15:30

場所：奄美パーク レクチャールーム 参加者数：17名

内容： 奄美大島の海岸にある貝殻やサンゴを材料にした生き物作りで、初めに、あらかじめセットされた材料（出来上がりの写真と必要な材料がセットになっているもの）で3体ほどを作成し、各自制作要領が飲み込めたところで、別途用意した数十種類の貝殻やサンゴの中からそれぞれ自由に材料を選び、創意工夫の見えるオリジナルの生き物を作成していた。

教室は、定員20名に対してキャンセル待ちがでるほどであったが、最終的には7組17名（大人7名・子ども10名）の参加者となった。

海や山の生き物のほか、ケンムンや鬼など独創性豊かな作品を一人当たり5体ほど制作し、「夏休みの課題ができて良かった」などと、参加者は完成品を手にも笑顔で教室を後にした。



(4) サマーコンサート

日時：平成25年8月11日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約260名

内容：多くの観光客や帰省客を迎えるこの時期に、奄美の文化や芸能を島内外に紹介するイベントとして、サマーコンサート「隆柳勘大と社中の舞・日置幸男&わらべんきゃ」を開催した。

隆柳勘大をはじめ総勢30名による日舞と島唄三味線でのプログラム構成で、隆柳勘大社中の出演者全員による日舞に始まり、中盤は日置幸男さんと小学生による島唄で、最初の曲「島かげ」では来場者も一緒になって合唱した。また、日置夫妻の踊り「麦畑」では会場の笑いを誘い、終盤を日舞と六調で締めくくり、来場者を飽きさせない内容となった。

隆柳流一門の華やかな日舞と日置幸男&わらべんきゃの元氣あふれる笑顔によって、客席を魅了するサマーコンサートとすることができた。



(5) フユウンメコンサート

日時：平成25年12月1日(日) 14:00~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約240名

内容：冬の折り目という意味で作物の収穫に感謝する「フユウンメ」の時期に合わせて、フラメンコダンスやキッズダンス、民謡、コーラスで構成したイベントを開催した。

舞舞オールオーラによる力強いフラメンコダンスに始まり、リズムックダンススタジオの大勢の子どもたちによるダンスの披露に続き、フラワーガーデンによる合計10曲のコーラスを披露した。コーラスでは子どもたちと一緒にクリスマスにちなんだ曲もあり、早速、クリスマスの雰囲気味わえる内容であった。

最後は、中尾聖子さんによる島唄3曲の披露の後、六調で出演者と来場者が一緒になって踊り締めくくった。



(6) 初春唄あしび

日時：平成26年1月3日（金）13:30～15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約580名

内容： 奄美随一の唄者とされる坪山豊さんの企画による新春恒例の「初春唄あしび」を開催した。内容は、一条流寿音会（いちじょうりゅうしゅおんかい日本舞踊）、柳清会本流（りゅうせいがいほんりゅう琉球舞踊）、島唄で構成し、全14演目を交互に披露した。

一条流寿音会による日舞で幕を開け、優雅なる舞を披露すると、柳清会本流の子どもたちがワイド節にのせ琉舞でステージを彩り、会場は華やいだ雰囲気にも包まれた。

島唄では、坪山さんや皆吉佐代子さんらベテランの唄者に加えて、坪山さんの下で島唄の練習を重ねる子ども達も登場した。

また、演奏者の一人がチヂン（太鼓）に替えて、アフリカの打楽器・ジャンベで稲すり節、カリンバ（親指のピアノの名前で知られるアフリカの楽器）で朝花節を披露する場面もあり、楽器の音と音楽がマッチングし会場からも大きな拍手が湧き上がった。最後はワイド節と六調を踊り閉会した。

地域住民や観光客、帰省客など会場に詰めかけた多くの観客が、今年最初のイベントの唄あしびを楽しんでいた。



(7) 奄美パーク春まつり ～サンガツサンチ～

日時：平成26年3月2日（日）

ひなまつりバザー：10:00～16:00

ステージ：13:30～15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約570名

内容： サンガツサンチという桃の節句にちなんで、女性ばかりの出演者で構成したイベントを開催した。また、イベントにあわせて、「ひなまつりバザー」を開催し、地元で採れた素材を活かした手作りの菓子や惣菜などの魚や農産物加工品を販売した。

総勢約90名のステージは、たまぐすりゅうりゅうせんがい玉城流琉扇會山元孝子琉舞道場による琉球舞踊、奄美高等学校郷土芸能部による伝統芸能、秋名合唱団による合唱、沢井箏曲院義永研究室による箏の演奏、リッコモダンジャズバレエスタジオによるダンスの披露で、観る方の目を離すことのない2時間のステージとなった。

ステージの入替時には、「ひなまつりバザー」出店者による各ブースのPRをしてもらったこともあり、イベントが終了する頃には、全店ほぼ完売していた。

また、鹿児島県園芸振興協議会大島支部主催による「平成25年度奄美大島・喜界島地区フラワーコンテスト」も同時開催し、終始、華やかで賑やかな会場の雰囲気にも包まれていた。



2 奄美の郷ライブステージ

(1) キッズダンスフェスティンパーク

日時:平成25年6月16日(日) 13:30~15:30

場所:奄美パーク 屋内イベント広場 入場者数:約490名

内容: 子どものダンスを中心としたイベント「キッズダンスフェスティンパーク」を開催した。フラダンスのフラカオスタジオは、龍郷教室と名瀬教室の2つの教室合同による35名の出演者で日頃の練習の成果を華やかに披露した。

南郷流舞踊教室は、5名の出演で琉球舞踊と日本舞踊を披露した。B→Matondsは、小学生と中学生、高校生が中心となり50名の出演でヒップホップダンスを披露した。子どもたちの元気いっぱいの踊りのほか、アクロバットの様な見せ場も

あり会場を沸かせた。奄美看護福祉専門学校の介護レンジャーは、子どもたちをおどろかせながらも奄美の「島口ラジオ体操」を取り入れた演劇で観客を楽しませた。

プログラム最後は、子供六調隊の伴奏にあわせ、約90名の出演者で六調を踊り賑やかに締めくくった。



(2) 初夏うた遊び

日時:平成25年6月23日(日) 13:30~15:30

場所:屋内イベント広場 入場者数:約150名

内容: 宇検村南部地区の文化や伝統芸能を中心としたライブステージ「初夏うた遊び」を開催した。

オープニングでは、「道の島太鼓」による迫力満点の地響きをたてて迫るような太鼓の披露が会場を圧倒した。

メンバー全員が昭和10年生まれで、みんなが集まれば三線と唄に興じるという「ヒギヤ唄いのしし会」は、今では演奏されることがまれな「朝別れ」や「しんむとう」など、2部構成で合計9曲を披露した。

昭和13年に新嘗祭に供える米の生産地に選ばれた際に、御田植え祭りに奉納したという村指定無形文化財「芦検稲すり節」で知られる「芦検集落民謡保存会」は、「正月ぎん節」と「きんかぶ節」を披露した。

今回のライブステージでは、奄美大島南部の独特な土薫るような古拙なシマ唄が聴衆を魅了した。



(3) しまうたミニライブ

日時：平成25年7月21日(日)・27日(土)
：平成25年8月4日(日)・10日(土)・18日(日)
：平成25年9月1日(日) (全日程 13:30~14:00)

場所：屋内イベント広場 入場者数：約250名(全6日間)

内容：夏休みは島外の家族連れで賑わうことから、多くの方に奄美の文化に触れていただくことを目的に「しまうたミニライブ」を開催した。期間中のイベントを計画していない土日を設定することで、夏休み期間中のすべての土日でイベントを開催することができた。

毎年、奄美パークでライブステージを実施している龍郷町島唄保存会の皆さんに演奏を依頼した。島外からの来館者は、「唄の意味や背景などを知り、島の文化に触れることができよかった」と大変喜んでいた。また、回数を重ねることで最後は、島内の方がミニライブの観覧を目的に来られるなど、島の方々にも浸透してきたようであった。



(4) 沖永良部島「伝統芸能の夏」

日時：平成25年8月24日(土) 13:30~15:45

場所：屋内イベント広場 入場者数：約380名

内容：昨年度の徳之島に続き、今回のライブステージでは、沖永良部島に焦点を当て、伝統芸能である唄や踊り等を紹介する内容で開催した。

10代から60代までの沖永良部島在住者約60名による4演目、同島出身の山元孝子さんが主宰する玉城流琉扇會山元孝子琉舞道場10名による祝舞を加えた5演目のステージで構成した。

山元孝子琉舞道場による祝舞で幕を開け、琉球國祭り太鼓による迫力あるエイサー、正名ヤッコ踊り、瀬利覚の獅子舞、うるま音楽協会の山下夫妻による民謡ショー、最後の総踊りでは来場者も加わって踊り、華やかな幕を閉じた。

ステージ中盤の獅子舞では、力強い舞の後に獅子がステージから下りて会場内を周回し、来場者の頭を噛むなどのパフォーマンスもあり、会場は終始笑顔であふれていた。また、沖縄の文化の影響が色濃く残る華やかな伝統芸能など様々なステージに加え、会場では沖永良部島物産展も同時開催し、沖永良部島一色に染め上げ、来場者を魅了し楽しませることができた。



(5) パフォーマンスバトル2014

日時：平成26年2月9日（日）13：30～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約1,060名

内容：応募のあった14組の団体・個人がパフォーマンスを披露し、観客による投票で順位を決定する「奄美パークパフォーマンスバトル2014」を開催した。

出場者は、子どもから高齢者まで幅広い年齢層で、演目はダンスや詩吟、太鼓、サンシン、ハーモニカ演奏など多彩となり、白熱したバトルが繰り広げられた。

優勝はB→Matond'sで、子どもが中心の迫力のあるダンスを披露した。準優勝はAMO DANCE SCHOOLで、息のぴったりと合ったダンスで会場を魅了した。また、出場者の健闘ぶりが顕著であったことから、県立大島高校の選抜甲子園出場を記念した特別賞として「大島高校センバツ出場記念賞」を設け、親子で寸劇とコーラスを披露した「フラワーガーデン♪」を選出した。今回受賞を逃したほかの出場者それぞれが、このイベントのために練習を積み重ねてきたことを感じさせる素晴らしいパフォーマンスであった。また、出場者同士で声援を送る姿も見られるなど皆で盛り上げていく雰囲気づくりもあり、会場が一体となったステージであった。

出場者自身がブログなどで来園を呼びかけたこともあり、出場者だけでも200人を越え、多くの来園者に恵まれた。

その他の出演者は、大島北高校北大島太鼓部、森田佐喜雄、奄美パーク応援隊 六調三線グループ、W-Mie、修武台吟詠奄美浩領会、DuMmy、フィットネススタジオサンビームキッズダンススクール、ハーモニカサークル・そよ風、奄美フォークダンスクラブ、コスツペラーズ、RIZMIC DANCE STUDIO



(6) 初花月ライブ

日時：平成26年2月16日（日）13：30～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約200名

内容：日舞・新民謡で企画・構成をしたライブステージを開催した。仙田流駒由起教室の歌と日舞の共演を皮切りに、奄美歌謡の久志哲美さん、平紀久美さん及び中島章さんが、それぞれ4曲を披露した。

続いて、日本舞踊の仙田流駒由起教室が12演目を披露して観客を楽しませ、再び、奄美歌謡ステージでは3組の歌手が、「東シナ海」「奄美めおと桜」「奄美で生きる」などご当地ソングを熱唱した。

最後は、奄美歌謡の3名で「島のブルース」を歌い出演者と来場者が野菜やおひねりなどをあげ一緒に踊るなど、皆で楽しめるイベントとなった。会場は、終始多くのお客様で賑わっていた。



3 文化講演会

奄美群島日本復帰60周年記念文化講演会

「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚教室！ in 奄美パーク」

日時：平成25年11月17日（日）13:30～15:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約2,750名

内容：奄美群島日本復帰60周年を記念して、テレビなど多くのメディアで活躍する東京海洋大学客員准教授のさかなクンを講師として、「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚教室！ in 奄美パーク」を開催した。

奄美漁業協同組合とまこと水産の協力により会場には奄美を代表する地魚や熱帯魚などを展示したほか、ナマコやヒトデなどをタッチプールで展示することで来園者が鑑賞できるように工夫した。さかなクンは、それらの奄美の魚の絵を一つずつ模造紙に描きながらクイズにし、豊富な知識で解説を交え、子どもたちを楽しませた。また、環境問題など難しい問題にも触れたが、子どもたちにも分かりやすい説明であったため皆熱心に聴いていた。最後の質問コーナーでは、たくさん子どもたちが我先にと挙手して多くの質問をしていたことから、今回の講演でさかなについての興味を持ったことが伺えた。会場いっぱいに詰めかけた親子連れは、楽しくさかなについて学べ大変満足した表情で会場を後にするなど、奄美群島日本復帰60周年記念に相応しい内容となった。



4 わきゃステージ in パーク事業

(1) ハートフルパーティ♡

(主催：フィットネススタジオ・サンビーム)

日時：平成25年4月20日(土) 14:00~15:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約100名

内容：フィットネススタジオ・サンビーム主催によるライブステージ「ハートフルパーティ♡」が開催された。

子どもたち(小学生11名・中学生2名)によるダンスのプログラム構成で、元気あふれる笑顔とダンスの披露により客席を魅了した。また、子どもたちの着替えの時は、繋ぎとして、先生の自己紹介や体操を行うなど来場者たちを飽きさせないプログラムとなり、来場者は終始楽しいひとときを過ごしていた。



(2) 島唄長雲会イベント

(主催：島唄長雲会)

日時：平成25年4月21日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約150名

内容：島唄長雲会主催によるライブステージ「島唄長雲会イベント」が開催された。代表の島袋さんが中央公民館で教えている会員(総勢46名)による島唄(20曲)や日舞(3回)によるプログラム構成で、足を止めて見入る観光客も見られたり、プログラムの最後では出演者と来場者が六調を一緒になって踊り、約2時間のステージを盛大に締めくくることができ、来場者は熱気であふれ楽しいひとときを過ごしていた。



(3) 隆柳勘大と社中の舞・日置幸男&わらべんきゃ

(主催：隆柳勘大)

日時：平成25年4月28日(日) 13:30~16:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約450名

内容：隆柳勘大主催によるライブステージ「隆柳勘大と社中の舞・日置幸男&わらべんきゃ」が開催された。

隆柳勘大をはじめ、園児から70歳代まで総勢30名による日舞と島唄三味線でのプログラム構成で、出演者全員による日舞でオープニング。中盤は、日置幸男さんと小学生による島唄を披露、最初の曲「島かげ」では来場者と一緒に合唱。終盤は、日舞を中心に、六調で締めくくる内容で来場者を飽きさせないステージが繰り広げられた。

隆柳流一門の元気あふれる笑顔と日舞で客席を魅了し、立ち見が出るほどの盛況ぶりで、会場内は終日大勢のお客様で賑わっていた。



(4) 汝きや我きや島唄しよーろ

(主催：龍郷町島唄保存会)

日時：平成25年6月30日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約160名

内容：龍郷町島唄保存会主催によるライブステージ「汝きや我きやしよーろ」が開催された。代表の伊勢勝義さんの司会進行による琉球舞踊や島唄のプログラム構成で、最後は出演者と来場者が一緒になって六調

を踊り、約2時間のステージを盛大に締めくくった。

ツアー団体や地域住民の来場者は、熱気であふれ楽しいひとときを過ごしていた。



(5) 島唄あしび

(主催：あやまる会・鹿児島県教職員共助会)

日時：平成25年7月7日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約150名

内容：あやまる会・鹿児島県教職員共助会主催によるライブステージ「あやまる会島唄あしび」が開催された。

プログラムは、小中高校生から教職員OBまで総勢58名によるコーラス、歌謡ショー、島唄三味線での構成であった。

子ども達が「朝花」でオープニングを飾り、中盤は元教職員による新民謡メドレーで会場を盛り上げたほか、島口(方言)小話など多彩なプログラムで来場者を楽しませた。



(6) チカ ハワイアン フラ ホイケ

(主催：チカハワイアンフラ)

日時：平成25年8月1日(木) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約70名

内容：チカハワイアンフラ主催によるライブステージ「Chica Hawaiian Hula Ho'ike」が開催された。

プログラムは、フラダンスの指導者、喜納愛さんを始めとする総勢30名によるフラダンスの構成で、オープニングは、イブヘケ(ひょうたん)という楽器で奏でるリズムで出演者が踊り、掛け声などもあって迫力のあるダンスであった。

ハワイ民謡などのメロディーに合わせ、元気あふれる笑顔と華麗なフラダンスを披露し、南国ムードを漂わせながら夏を感じさせる内容で、来場者は優雅なダンスを熱心に見入っていた。



(7) 永田将也ステージ

(主催：永田将也)

日時：平成25年8月10日(土) 14:00~14:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約30名

内容：大和中学校3年生の永田将也君によるライブステージが開催された。

永田君は、音楽バンドのスピッツの名曲3曲と奄美在住の歌手ハシケンの曲1曲の全4曲を熱唱した。最初の曲「チェリー」の演奏では中学生とは思えないギター腕前で来場者を驚かせ、続けて2曲3曲と歌声がイベント会場全体を包み、素晴らしいライブショーとなっていた。

なお、今回は新たなスタイルとなる一人舞台で開催され、今後の「わきゃステージ in パーク」の利用促進につながるものと期待される内容であった。



(8) でい・せんばあ・ライブ フリマ

(主催：楠田哲)

日時：平成25年12月15日(日) 11:00~17:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約140名

内容：奄美パークのある節田集落に在住で、仕事の傍ら様々な音楽活動をされている楠田さん主催の「わきゃステージ in パーク」が開催された。

バンド仲間や知り合いによるフォークソング、ジャンベなど多種多様なジャンルの演奏で構成された。奄美パークでの演奏が初めてというグループも多く、力いっぱい歌ったり楽器を演奏していた。出演団体が多くイベントは長時間となり、来場者の入れ替わりはあったものの飽きさせない内容であった。

演奏や歌声がイベント会場全体を包み、素晴らしいライブショーとなり、また、同時にフリーマーケットも開催したことで、出演者も来場者も終始楽しいひとときを過ごしていた。



(9) 大高芸術祭・吹奏楽部ミニコンサート

(主催：大島高校吹奏楽部)

日時：平成26年3月2日(日) 14:00~14:45

場所：屋内イベント広場 入場者数：約110名

内容：3月16日までの期間で田中一村記念美術館企画展示室において、県立大島高等学校「美術部書道部展」が開催される大高芸術祭の一貫で、同校の「吹奏楽ミニコンサート」が開催された。

顧問の立石先生指揮の下、選抜高等学校野球大会入場行進曲「恋するフォーチュンクッキー」を披露したほか、懐メロやアニメ曲など全8曲を部員46名で演奏した。また、指揮者体験として、顧問の先生から指揮は大きさや速さなどの手の振り方で変化すると説明があり、来場者全員で練習し、実際に来場者の指揮にあわせた演奏も行われた。

吹奏楽部の演奏による応援で、選抜高等学校野球大会での野球部の活躍にも期待が膨らむ内容で、この日の会場は、部員の家族や卒業生も駆けつけ、素晴らしいミニライブに盛り上がっていた。



(10) スプリングコンサート

(主催：アマービレ吹奏楽団)

日時：平成26年3月9日(日) 14:30~16:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約130名

内容：奄美大島の音楽愛好家で組織し活動するアマービレ吹奏楽団による「スプリングコンサート」を開催された。地元の県立大島高等学校が選抜高等学校野球大会初出場することを記念して、「恋するフォーチュンクッキー」「タッチ」「栄光は君に輝く」「甲子園応援曲メドレー」を演奏したほか、春にちなんだ曲やアニメソング、演歌、歌謡曲、テレビ番組の主題歌など多彩なレパートリーを披露した。

来場者は、会場に響き渡るは吹奏楽団の生演奏に聞き入っていた。



5 その他の自主事業

(1) 奄美群島日本復帰60周年記念ステージ「つなぐ島々」

日時：平成25年9月15日（日）13:30～15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約230名

内容：平成25年度は奄美群島が日本復帰を果たしてから60周年を迎えたことから、奄美群島の各島々の絆を改めて認識するとともに、これまでの奄美群島の歴史文化を踏まえ、新たな時代にもつないでいくとの願いから、「つなぐ島々」をテーマにライブステージを開催した。

奄美大島からは「北大島太鼓部」、喜界島が「川畑さおり&界眞子」、徳之島が「T A n B O」、沖永良部島が「ザバンシローズ」、与論島が「ゆんぬエイサー」と奄美群島の各島々から1つのユニットが出演し、各島々にちなんだパフォーマンスを披露した。

プログラム最初の「北大島太鼓部」は、オリジナル2曲を勇壮な響きながらもどこか愛らしさを漂う演奏で、次の徳之島の「T A n B O」はフォークデュオで自作曲を3曲披露しギターと三味線の弾き語りで会場を癒した。沖永良部島の「ザバンシローズ」は、ポップで軽快なオリジナル曲5曲を披露し会場を楽しませ、喜界島の「川畑さおり&界眞子」は、島唄4曲を披露し艶やかな歌声で魅了した。トリは、与論島の「ゆんぬエイサー」、約20年前に地元の青年会が沖縄のエイサーを学び結成された団体で、オリジナルの「島讃歌」を含む8曲を披露し、最後はカチャーシーで来場者と一緒に踊って締めた。



(2) 奄美群島日本復帰60周年特別ライブステージ ～民謡日本一唄者の共演

日時：平成25年11月10日（日）

（午前の部：10:30～11:30 午後の部：13:00～14:00）

場所：屋内イベント広場 入場者数：約230名

内容：特別ライブステージは、11月9日に開催された奄美群島日本復帰60周年記念式典に出席した来場者の方々にも観覧していただけるよう午前・午後の2部で開催した。

民謡日本一に輝いた唄者の築地俊造さんと楠田莉子さんが交互に登場。築地さんは島の世間の狭さをコミカルに表現した自作曲「兄弟つくわ」で楽しませ、楠田さんは囃子の飯田秋さんとともに「嘉徳なべ加那」で伸びやかな歌声を響かせた。

最後は築地さんと大笠利集落の方々による集落に残る皿踊り「ぐいくまぎり」を披露。沖縄市コザから伝わったとされる同曲では、踊り子たちが四つ竹代わりの小皿2枚を両手に楽しく舞い踊り、観客も珍しそうに見入っていた。

来場者は各曲の数々を堪能し終始楽しいひとときを過ごした。



(3) 文化の日イベント

日時：平成25年11月3日（日）

①昔あそび体験会

（午前の部 10:00～12:00、午後の部 13:30～16:00）

②けんむんクイズラリー（終日）

③田中一村ちびっ子鑑賞会（10:00～11:00）

場所：①屋内イベント広場内 ②奄美の郷内

③田中一村記念美術館

参加者数：昔あそび体験会：約150名

けんむんクイズラリー：約150名

田中一村ちびっ子鑑賞会 13名

内容：文化の日は観覧料を無料としており、この機会に奄美パークをさらに身近に感じていただく目的に文化の日イベントを開催した。奄美手熟師会の指導の下、わらじづくり、わりばしでっぼう、紙ずもう、竹トンボ、ゆびハブづくりなどの「昔あそび体験会」を行った、また、田中一村記念美術館では、小中学生を対象に「田中一村ちびっ子鑑賞会」を開催し、学芸専門員と一緒に作品の鑑賞をしたり、バックヤードをまわるなど美術館の仕組みを観察した。そのほか、総合展示ホール及びアイランドインフォメーションの展示物に興味を持ってもらう機会として行っている通年事業の「けんむんクイズラリー」でも有料ゾーンへ無料で入れることから、多くの子ども達が楽しんでいた。

無料開放のこの日は朝からたくさんの親子連れでにぎわい体験やクイズを楽しむ家族や、普段見ることのできない美術館の裏側に興味を示す家族もいるなど、イベントを通じて奄美の文化を再認識してもらうとともに奄美パークの展示や機能を充分理解してもらえる機会となった。



(4) 第7回こどもクリスマス会

日時:平成25年12月23日(月)10:00~11:30, 14:00~15:30

場所:屋内イベント広場

入場者数:(午前の部)約1,500名,(午後の部)約1,000名

内容:冬休みやクリスマス間近のこの時期に子どもたちにクリスマスを楽しんでもらうために「第7回奄美パークこどもクリスマス会」を開催した。

クリスマスまでにサンタクロースがプレゼントを準備している様子を紹介するビデオの上映や、地元で活動するサークルの「ハピカン」による鹿児島PRキャラクターの「ぐりぶー」と奄美市のキャラクターの「コクトくん」とのダンス, また, 同じく地元で活動するサークルの「チルドレン」による桃太郎をモチーフにしたダンスショーなどの上演に子どもたちは楽しんでいた。

ショーの途中, サンタがプレゼントを盗まれるという設定で会場の子どもたちまで巻き込んだ演出では, 会場が一体となったステージとなった。

今年度は奄美大島内の多くの企業から景品を提供いただき, 最後の抽選会では, たくさんのプレゼントに子ども達は湧き上がっていた。なお, イベントの最後に抽選に外れた子どもたちにはお菓子を配布した。

大勢の家族連れに恵まれ, 大変賑やかな一日となった。



(5) 奄美パーク新春寄席

日時：平成26年1月5日（日）13:30～15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約230名

内容：新しい年を迎え、普段、日本古来の伝統芸能である落語にふれる機会が少ない奄美の方々に落語を楽しんでいただくとともに、奄美パークを身近に感じていただけるよう新春イベントとして新春寄席を開催した。

最初の一席は三遊亭歌扇さん（二ツ目）による落語で、小話で観客を笑わせ、リラックスさせたところで本題の「桃太郎」を披露した。父親が桃太郎の昔話で子どもを寝付かせようとしたところ、物知りの現代っ子にやり込められ、自分が寝てしまうという話を面白おかしく話した。

続いて、三遊亭鬼丸さん（真打）の一席目では奄美大島でのエピソードも交えて、気の短い夫とのんびり屋の妻の話である「長短」を披露した。

中入り後は、お笑い芸人の南野やじさんが漫談を披露した。袈裟を掛け僧侶の格好をして木魚や鈴を鳴らしながら読経のような漫談を演じる「お経漫談」では、紙芝居のように漢字を使ったダジャレネタを見せながら独自の世界観を繰り広げた。三遊亭鬼丸さんの二席目では、古典落語の名作「鰻のたいこ」を披露した。

新春寄席も恒例となり、江戸前の落語と斬新なお経漫談で、初笑いを提供することができた。なお、演目終了後には抽選会を開催し、来場者に出演者3名から提供いただいた景品などをプレゼントした。



(6) 春休み小中学生以下限定抽選会

期間：平成25年3月23日（土）～4月7日（日）

場所：奄美パーク 期間中の参加者数：203名

内容：小中学生の集客を図るために、奄美パークのチケットを購入した小中学生を対象に「春休み小中学生限定抽選会」を実施した。

親子で景品を楽しそうに選ぶ姿が見られるなど好評であり、入場者数が昨年度と比較して約1.5倍増える結果となった。

(7) けんむんクイズラリーミッション

期間：平成25年5月25日（土）～6月30日（日）

場所：奄美の郷内 期間中の参加者数：222名

内容：雨の多い梅雨時期に室内でも楽しめるように「けんむんクイズラリーミッション」という企画を実施した。

クイズラリーは、無料ゾーンのみでも楽しめるように問題を配置することで、多くの子ども達が参加できるよう工夫した。全問正解した子どもには文房具等の景品をプレゼントし、全問正解をしなかった子どもにもお菓子を配布した。

また、このクイズラリーの答えから奄美に関する言葉を導き出すクイズを出題し、期間終了後に正解者の中から抽選で景品をプレゼントした。

親子や友達同士でクイズを楽しむ姿が見られ、期間中に行ったアンケートではとても楽しかったという意見が多くみられた。また、一回行った子どもが友達を連れてくるなど口コミの効果が入場者の増加につながった。

(8) 夏休み小中学生以下限定抽選会

期間：平成25年7月20日（土）～平成25年9月1日（日）

場所：奄美パーク 期間中の参加者数：1,019名

内容：夏休み期間中における集客を図る目的に、奄美パークの観覧券を購入した中学生以下を対象に「夏休み小中学生以下限定抽選会」を実施した。

福引を行っていることを告げることで、観覧券を購入する家族もあり、楽しそうに景品を選ぶ姿が多く見られるなど大変好評であった。

(9) 冬休み中学生以下限定抽選会

期間：平成25年12月24日（火）～平成26年1月13日（月）

場所：奄美パーク 期間中の参加者数：145名

内容：冬休み期間中における集客を図る目的に、奄美パークの観覧券を購入した中学生以下を対象に「冬休み中学生以下限定抽選会」を実施した。

抽選にはずれてもお菓子がもらえるようにしたため、子どもたちには好評で、家族で福引きを楽しんでいる姿が多くみられた。

また、総合受付に設置した福引器が来園者の目を引き、大人も興味を示していた。

(10) 奄美群島日本復帰60周年記念「あの日の記憶」パネル展

期間：平成25年5月25日（土）～11月30日（土）

場所：奄美の郷 アイランドインフォメーション付近

期間中の入館者数：33,241名

内容：奄美群島日本復帰60周年を記念し、南海日日新聞の協力で同紙が連載している「あの日の記憶」のパネル展を開催した。

復帰から60年間、奄美群島がどのように変化してきたかを紙面で振り返る企画で連載しているもので、復帰直後の産業や当時の自然災害、事件などさまざまなテーマを紹介した。

観光やイベントに訪れた人々がパネルの前で立ち寄り、昔懐かしい写真に目を細めたり、記事をじっくり読む姿が多く見られた。



(11) 県立大島高等学校モザイクアート展

期間：平成25年7月5日（金）～11月30日（土）

場所：奄美の郷 エントランス付近

期間中の入館者数：28,302名

内容：県立大島高等学校2年1組の生徒が、奄美群島日本復帰60周年を記念し制作したモザイクアートを展示した。

同校文化祭展示作品で、田中一村の代表作である「初夏の海に赤翡翠」をモザイクアートで表現した作品に併せて、太平洋戦争開戦から日本復帰に至るまでの年表、制作した2年1組の顔写真なども掲示した。

すばらしいモザイクアートに来館者が目を引いていたり、生徒たちが当時の出来事を後世にずっと伝えていく必要性、歴史を残すことの大事さを感じながら制作したであろう年表に足を止めて真剣に見入る観光客の姿も多く見られた。



(12) 第86回選抜高等学校野球大会大島高等学校応援パブリックビューイング

日時：平成26年3月25日（火）13:00～16:20

場所：奄美の郷 屋内イベント広場 入場者数：約320名

内容：奄美群島から甲子園初出場という悲願を達成した県立大島高等学校の試合を大型スクリーンで観戦するパブリックビューイングを開催した。

大島高等学校の先行攻撃で試合が始まり、選手たちは甲子園という大舞台にも臆することもなく、初出場とは思えない試合で、奄美の先人が受け継いできたストゴレ魂（負けてたまるか）を見せ、選手のヒットや好プレーが出るたびに観客は総立ちで拍手を送り、中盤点差が開くも試合が終わるまで歓声は鳴りやまなかった。

また、会場は、あまみエフエムの協力で、甲子園球場のアルプススタンドや奄美市内の他のパブリックビューイング会場とも実況中継でつながり、一体感が高まる応援となった。

職員が手作りでオリジナル応援旗300本を準備し、試合終了後に記念に応援旗を持ち帰る来場者の姿も満足顔で、試合には負けたもののパブリックビューイング開催により、大画面の前に集まった地域の方々は大勢で応援をすることができ感動も共有していた。



6 共催事業

第3回ケンムンふえすた「交流イベント」

日時：平成25年7月28日（日）14:00～17:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約470名

内容：世界自然遺産登録推進に取り組む奄美において、伝説として語り継がれる存在で、奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島ではケンムン、喜界島ではガラオー、沖永良部島ではヒーヌムン、与論島ではイシャトウ、ハタパギマンジャイと呼ばれている妖怪をとおり、自然や文化の奥深さを探り、また、住民の皆さんが島の自然・文化に目を向けるきっかけを作ることで、奄美を情報発信することを目的としたイベント「ケンムンフェスタ」を奄美群島広域事務組合、奄美・やんばる広域圏交流推進協議会、一般財団法人南西地域産業活性化センター、けんむん村及びホライゾン編集室と共催で開催した。

今年度は、「奄美・沖縄（やんばる）との妖怪交流」として、かねてから交流のあった奄美群島とやんばる地域の交流宣言などを中心として行った。

また、毎年フェスタにあわせて行っているコンテストについては、今後キャラクターとして活用することを目的にキャラクターコンテストとして募集し、奄美群島12市町村のキャラクターを選定した。

交流イベントは次のとおり

- ① 沖縄の芸能として、玉城流琉扇會山元孝子琉舞道場が、オープニングにふさわしい賑やかな「祝い節」を3歳から高校生までの総勢27名による軽やかな踊りを披露した。
- ② 奄美の芸能として、祝い唄をケンムンの話を交えながら築地俊造さんが披露した。
- ③ ケンムンふえすたにあわせて作詞作曲した新民謡「出でよ ケンムン」を作曲者である坪山豊さんが披露し、明るくユニークな曲調に会場が和んだ。
- ④ 奄美・やんばる地域交流宣言として、奄美側とやんばる側の挨拶の後、コンテストで選定したキャラクターを紹介し、地域交流宣言及び調印式を行った。



⑤ 沖縄からアーティストであるボクネン氏を招き、宮崎園長とトークショーを行い、ボクネン氏の子どもころの話を伺いながら、ケンムンとキジムナーの特徴を対比し、ケンムンやキジムナーは人間の古層の記憶に書き込まれている思想や自然への畏怖、伝えたいもののシンボルとなって表れているのではないかと考察した。また、ボクネン氏がアーティストとして現在に至るまでの話を伺いながら、田中一村の芸術にも触れ、その作品にケンムンが隠れているのではないかとともに考察した。

⑥ 徳之島の神田浩生さんは、擬音や楽器を使って、森の様子を表現しながら自作の楽しいケンムン&クロウサギの唄を披露した。

⑦ イベントにあわせて行われた「ケンムンキャラクター・写真コンテスト」の表彰式を行った。今年は、キャラクター・写真部門の2部門について687点の応募があった。その中からキャラクター部門のケンムン大賞には大川中学校の登島蓮君が受賞した。また、12市町村キャラクター賞、道の島交通賞、日本エア通勤ター賞、部門賞の表彰をした。

⑧ 奄美市の公式キャラクター「コクトくん」とばしや山村の「ケンケン」「ムーンちゃん」のダンスをバックに沖縄・奄美の物産の抽選会を行った。

⑨最後に、ケンムン大賞と各部門の最優秀賞の作品がラッピングされた道の島交通のバスに名入れをし、バスを背景に記念写真撮影を行った。昨年と同様多くの来場者に恵まれ、賑やかなイベントとなった。



V 田中一村記念美術館企画事業

1 奄美関連作家展及び招待作家展

(1) 村上光明写真展【神々の島・奄美】－シリーズ黒潮街道－

期間：平成25年3月31日（日）～4月21日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,821名

内容：企画展示室において、1995年から19年間にわたり奄美群島を精力的に取材し、全国誌などで奄美の魅力を発表し続けている写真家村上光明氏の作品60点を展示した。

村上氏は、平成15年県美展の奄美大島巡回展の実行委員長として、奄美文化センター、田中一村記念美術館での開催に尽力し、現在も、奄美群島の写真家とのつながりを持ち続けるなど、様々な方面で奄美の芸術振興や情報発信に関わっている。

島内外より多くの観覧者が訪れ、「奄美の伝統の神聖な営みを知ることができてよかった」「青い海と空の鮮やかさが心に残りました」などと、村上氏の素晴らしい写真に感心していた。



(2) 奄美群島日本復帰60周年記念

奄美・横浜・沖縄合同美術展 「水の道・海の道・美の交流展」

期間：平成25年4月27日（土）～5月19日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：2,801名

内容：「水の道・海の道・美の交流展」は、奄美群島日本復帰50周年にも開催され、大成功を収めた。2013年、奄美群島日本復帰60周年を記念し、再び奄美・横浜・沖縄の美術家が奄美に会し、それぞれの地域の歴史や文化、風土の素晴らしさを島内外に発信し、更に交流を通して互いの美術活動や表現等について研鑽し合うとともに、地域の芸術文化の発展に寄与することを目的として開催した。

5月16日には、あいにくの悪天候の中、横浜、沖縄から出品作者44人が来島し、奄美の出品者等と作品や各美術団体の活動等について情報交換を行った。「今回の交流展・交流会も本当に素晴らしかった」「10年後も開催したい」などという声が聞かれた。



(3) SHOBUSTYLE ～美しい行為からうまれるカタチ～

期間：平成25年7月7日（日）～7月28日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,707名

内容： 企画展示室において、しょうぶ学園の布、木、土、和紙の各工房と、絵画、造形教室で制作された作品を57点展示した。

知的障害者支援施設である「しょうぶ学園」は、ものづくりを通して障害者の支援を行い、施設利用者が作り出す感性豊かな作品と、特色ある取り組みは、国内外から広く注目されている。

7月7日には、オープニング記念芸術文化講演として、しょうぶ学園総括施設長の福森氏を招いて、「工房しょうぶの美意識エンパワメントー人間の本来持っている力とはー」と題した講演をしていただいた。

島内外から多くの方が訪れ、「どれも素晴らしい作品ばかりで胸を打たれました」「目の保養にもなり、パワーを感じ、元気を貰った」などという声が聞かれた。



(4) 没後十年アトリエの行者木下貴雄遺作展

期間：平成25年8月11日（日）～9月8日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：2,541名

内容： 没後10年となる木下貴雄の遺作展を開催した。

木下は、昭和17年宮崎県小林市に生まれ、画家になるために鹿児島県立甲南高等学校に進学。卒業後、東京芸術大学を4度受験するが入学は叶わず、東京都国立市のアパートでひたすら作品制作に打ち込んだ。約40年間、木下が暮らした6畳のアパートには、3千点を越えるデッサンや油彩画が残されていた。木下の清貧を貫き、自分の芸術性を高めるためのみに描く姿は田中一村と通じ、その作品は驚く程に素晴らしいものばかりである。

本展では、児玉美術館所蔵作品22点、時任学園所蔵作品23点、その他個人所蔵7点の計52点に加えて、パレットなどの遺品を展示した。

島内外から多くの来館者があり、「個性が強く出ていて、とても圧倒された」「今年、最高の思い出になりました」など、木下の作品に感心しながら、熱心に鑑賞していた。遺作展の開催により、田中一村のように埋もれた素晴らしい画家を紹介することができた。



(5) 「島のゆしぐとぅ」書道作品展

期間：平成26年1月26日（日）～2月16日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：2,111名

内容：古くから伝えられてきた奄美の格言や諺などの「島のゆしぐとぅ」は、過去の知恵と言うものだけではなく、豊かに生きるための学びや人への思いやり、価値観などについて大切なことを気付かせてくれる言葉であり、その「ゆしぐとぅ」を爽やかな墨の作品として展示することで、島外からの旅行者にも奄美の奥深さ素晴らしさを味わってもらおう機会になると考え開催した。

来館者からは、「『ゆしぐとぅ』は昔から耳にしていたが、この様に書で表すと教えの奥深さが理解できた」「語りかけるような文字の数々で勉強になりました」などの声が聞かれ、「島のゆしぐとぅ」の意味や字の配置、濃さ、書体の使い方など、それぞれ個性が出ている作品に感心していた。

また、展示会に合わせ、2月14日に節田小学校3・4年生13人を招いて講話会を行った。大島地区文化協会連絡協議会会長の山田薫氏を講師に迎え、作品のテーマとなった「島のゆしぐとぅ」について解説した。参加した児童は、ゆしぐとぅに興味を持ち、読み方や意味を講師に尋ねていた。



2 第60回記念県美展 奄美関連作家展

期間：平成25年6月9日（日）～6月30日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,282名

内容：第60回記念県美展において入選・入賞した奄美関連作家らの作品、洋画14点、日本画1点、写真14点の合計29点を展示し、島内外の美術愛好家に紹介するとともに、奄美群島の芸術発展への役割を担い開催した。

初日は、作家によるフロアトークを行い、出席した17名の出品者それぞれが、作品に対する思いや、表現方法について語った。

奄美から出品し、鹿児島市長賞や、県美術協会賞、奨励賞を受賞した作品に加え、記念大賞と、田中一村記念美術館賞の受賞作品も展示したことで、奄美の秀作を前に来館した人々は感動していた。



3 田中一村写生の世界展

期間：平成25年12月22日（日）～平成26年1月19日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,904名

内容：奄美群島日本復帰60周年及び田中一村来島55周年を記念して「田中一村写生の世界展」を開催し、一村が千葉時代、奄美時代に描いた写生図47点を展示した。

対象の本質を捉えるためにポーズを変え何枚も描いたものや、彩色や色など細部の説明を書き込んだもの、本画のために構想したものなど、写生図を鑑賞することで、本画が完成するまでの過程を理解し、一村が作品に込めた思いを知ることができる。

来館者からは、「絵の世界に打ち込む一村の思いが伝わってくるようでした」「作品の裏側にある一村の視線を感じられたようでとても興味深かった」との声が聞かれた。一村ファンにとって多くの写生図をまとめて鑑賞できる貴重な機会となった。



4 田中一村記念スケッチコンクール作品展

期間：平成25年9月21日（土）～10月6日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,609名

内容：奄美群島内の幼児・小中学生を対象に奄美の自然や生活・行事などをテーマにスケッチ作品を募集したところ、昨年度より150点以上多い514点の応募があった。その中から、審査により、入賞、入選作品301点を選び展示した。子どもたちが生き生きと個性豊かに描いた作品が展示室の壁いっぱい並び、来館者は、子どもの純粋で素直な視点や感性を楽しみながら鑑賞していた。



5 第12回奄美を描く美術展

(1) 本展

期間：平成25年10月27日（日）～11月24日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：3,229名

内容：奄美を描く美術展は、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、奄美の風物や文化に接し、作品を発表する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的に開催している。

第12回目となる今回は、奄美群島日本復帰60周年にふさわしく全国から124点の素晴らしい作品（油彩、水彩、アクリル、日本画、工芸、パステル、テンペラ等）が寄せられ、審査を経て、入賞12点、入選46点の合計58点を展示した。

審査員長續橋守氏（横浜美術協会会長、主体美術協会会員）からは、「テーマ『奄美』に対して、風景だけでなく様々なイメージ、表現方法の作品が出品されていることに新鮮な驚きを感じた。具象に徹するだけでなく、自分の感情やテーマに対する印象を造形的に表現する作品が増え、ますます本展が盛り上がることを期待したい」と総評した。

来場者は、入賞・入選者の力作に魅了されていた。



(2) 巡回展

期間：平成25年12月13日（金）～12月22日（日）

場所：喜界町中央公民館新館 入場者数：約200名

内容：今年度で4回目となる「奄美を描く美術展巡回展」を喜界町で開催し、本展の入賞12点、入選46展の計58点の作品と田中一村作品の複製画6点を展示した。

喜界町中央公民館の職員や役場職員の方々の協力により、見応えのある展示となり、来場者からは、「素敵な展示会をありがとう」「次の巡回展はいつですか」という声が聞かれた。喜界町の出品者をはじめ、多くの町民が展示作品を熱心に鑑賞していた。

また、最終日には、喜界町役場で一村出前講座「55年目の一村と奄美」を題材に宮崎緑館長が講演を行った。



(3) 「第12回奄美を描く美術展」入選・入賞作品



奄美群島日本復帰60周年記念
奄美を描く美術展大賞

「holiday」

F15 油彩 田河 美紀子 (奄美市名瀬)

瑞々しく華やかな色彩によって、奄美の自然と人物を見事に構成している。女性の健康的な美しさが伝わる力作である。

田中一村記念美術館賞

「幻映」

F15 日本画 藤原 佳子 (愛知県)

暗く重い森の中央に花を配し、微妙な色調、技術、イメージが結びついて幻想的な森の空気感を見事に表現している。



優秀賞

「あんまー」

F15 油彩 南 弘子 (与論町)

浜の母と子の温かい家庭愛、地元の空気が伝わってくる。力強さと優しさを感じる魅力的な母子象の作品である。

優秀賞

「六調踊り」

S15 墨絵 池上 武男 (長野県)

墨の濃淡と勢いのある筆がカエルの動きと生命感を表現している。スクエアの構図、余白と黒のバランスが美しい。





優秀賞

「静謐な朝－名瀬」

F15 油彩 井上 伸久 (奄美市名瀬)
建物、空に見るデッサン力が素晴らしい。細部まで描写を徹底して生活感を描き出した完成度の高い作品である。

優秀賞

「港町」

F10 油彩 上野 圭子 (奄美市名瀬)
船、街並みの佇まいの様子が大変美しい。水面の反映の色彩と筆致が新鮮で、動きのある構図に島の活気が伝わる。



優秀賞

「キララ」

P15 七宝 高塚 ヒサノ (鹿児島市)
抽象、具象の組み合わせが面白く、線と面の構成にはリズムや音楽性を感じる。七宝焼きの技術が非常に高い。

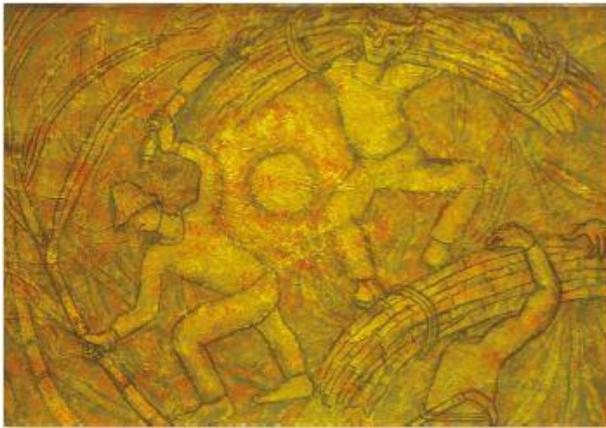


佳作・奄美の海賞

「手広海岸・嵐の中で」

S15 アクリル 鈴木 明実 (龍郷町)
波の動きや力強さが表現され、音を感じる程の臨場感がある。マチエルの工夫など独自の造形に高めている。





佳作・奄美の空賞

「サトウキビの収穫」

四つ切り アクリル 天美 みずほ (埼玉県)

労働する男3人の動きがとてもユニークで、色調を抑えながらも声や汗、熱気が伝わる大きさを感じる作品である。

佳作・奄美の杜賞

「She is always here.」

35.0×47.5 ミクストメディア 中田 久雄

(奄美市名瀬)

小品ながら様々な技法や材料を巧みに組み合わせ、文字や枝のコラージュなど自身の作品世界をアピールしている。



ヤング賞

「景観-星窪」

F15 油彩 泉 ルルノ (龍郷町)

奄美の空の広がりや高さ、時間による変化をコラージュするように表現している。若々しく将来が楽しみな作品である。

シルバー賞

「島の朝競り」

F15 アクリル 元井 晴美 (兵庫県)

漁港水揚げ場の風景に人を上手く配置し、人の掛け声など港の賑わいが伝わってくる。細部まで丁寧に描いている。



6 その他企画展

(1) 龍郷町立小学校・中学校図画工作・美術科学習発表展

期間：平成25年12月1日（日）～12月15日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,149名

内容： 龍郷町立の小・中学校10校と大島養護学校の児童生徒が授業で制作をした絵画・立体などの作品を展示した。昨年と比べ作品数も増え、子どもたちの個性あふれる作品を前に、来場者は、とても感心した様子だった。

また、「素晴らしい美術館の中で展示させていただく機会を子どもたちに与えていただきありがたい」「町内すべての学校の作品が一度に見ることができ、とても良かった」などという声が聞かれた。



(2) 大島高等学校芸術祭 書道部・美術部合同作品展

期間：平成26年3月1日（土）～3月16日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,879名

内容： 今回で5回目となる鹿児島県立大島高等学校「大高芸術祭」を開催した。同高の書道部と美術部の作品（書道19点、絵画13点）を展示した。高校性の若々しく、感性あふれる書と絵画の作品が壁面を飾った。

初日の3月1日（土）13時から「オープニングセレモニー」をエントランスで開催し、展示会のスタートを切った。また、同日14時から奄美の郷屋内イベント広場において、吹奏楽部によるミニコンサートが行われ、多くの来場者を楽しませた。



7 芸術文化講演及び美術講演

(1) 工房しょうぶの美意識エンパワメント

日時：平成25年7月7日（日）13:30～15:30

場所：田中一村記念美術館ガイダンス室 参加者数：13名

内容： オープニング記念として、しょうぶ学園総括施設長の福森氏を講師に招き、「工房しょうぶの美意識エンパワメントー人間の本来持っている力とはー」をテーマに、芸術文化講演を開催した。

島内外から、工房しょうぶの作品や取り組みに興味を持つ人々が参加した。参加者から、「どれも素晴らしい作品ばかりで胸を打たれました」「目の保養にもなり、パワーを感じ、元気を貰った」などという声が聞かれた。



(2) 没後十年アトリエの行者木下貴雄遺作展 記念美術講演

「田中一村と木下貴雄の高潔な生き様と作品世界」

日時：平成25年8月25日（日）13:30～15:00

場所：奄美の郷 屋内イベント広場 入場者数：約130名

内容： 奄美の郷屋内イベント広場において、「没後十年アトリエの行者木下貴雄遺作展」の開催を記念した講演を開催した。

講演に先駆けて、奄美の唄者築地俊造氏による島唄を披露し、鹿児島市からの参加者の多くは、素敵な唄声に魅了されていた。

講演では宮崎館長をコーディネーターに、『アトリエの行者木下貴雄物語』著者久本勝紘氏、『アダンの画帖田中一村伝』著者中野淳夫氏、画家・AJAC代表、そして甲南高校美術部で木下貴雄氏の上級生だった田中允氏をパネラーに迎え、「田中一村と木下貴雄の高潔な生き様と作品世界」をテーマに語り合ってもらった。

パネラーからは、2人の画家が貫いた美意識、創り上げた作品世界、そして2人にとっての「奄美」についてなど、貴重な話を聞くことができた。また、会場に来ていた木下貴雄氏と同窓・同級である甲南高校OBや、木下貴雄が半年間勤めた名瀬市立大川中学校の同僚、教え子から木下の若き日の知られざるエピソードなども披露された。



8 一村出前講座

和泊町・徳之島町・与論町・喜界町

日時：①平成25年11月3日(日) 10:15~11:45
②平成25年11月23日(土) 14:50~16:10
③平成25年11月30日(土) 16:00~17:00
④平成25年12月22日(日) 10:00~11:30

場所：①和泊町町民体育館 ②徳之島町生涯学習センター
③与論町砂美来会館 ④喜界町自然休養センター

内容：奄美群島日本復帰60周年記念と併せて田中一村来島55周年の奄美パーク事業として、普段、田中一村の作品に触れることの少ない本島以外の島で、奄美パーク園長・田中一村記念美術館館長宮崎緑が、レプリカやスライドを用いて田中一村の作品を紹介した。

和泊町と与論町及び喜界町では「55年の一村と奄美」を題材に、徳之島町では「地球市民を育てる」を題材に宮崎館長が講演した。

各町とも、予想していた数を上回るほどの来場者があり、盛会であった。各町民に田中一村だけでなく、奄美の自然や歴史、文化をグローバルな視点で伝えられ、奄美パークとしての役割を果たすことができた。



9 創作体験教室他

(1) 創作体験教室 楽しい色紙絵「奄美を描こう」

日時：平成25年5月26日(日) 10:00~16:00
場所：奄美の郷 レクチャールーム 参加者数：19名
内容：当美術館初代学芸専門員で川辺高等学校で非常勤講師として勤務している西村康博氏を講師に招き、日本画の創作体験教室を開催した。

参加者の多くは、日本画の絵の具の使用や色紙絵を描くことが初めてであったにも関わらず、野菜や果物、植物などの題材に対して、熱心に創作活動に取り組んでいた。活動の終わりには、完成した作品に西村氏が講評を行い、互いの作品を鑑賞した。

参加者は皆充実した表情で、色紙絵の創作を通して日本画の特徴や表現することの楽しさを味わってもらおうという目的を果たすことができた。



(2) 夏休み子どもワークショップ

「ガジュマルのエネルギーを感じてアートしよう」

日時：平成25年7月28日（日）10:00～12:00

場所：奄美パーク出会の広場 ガジュマルの木周辺

参加者数：35名（保護者を含む）

内容：世界的に活躍している沖縄県出身の版画家ボクネン（名嘉睦穂）さんをゲストに迎え、ガジュマルの下で光、風、自然を感じ、感じたもの、思い浮かんだことを自由に描き、自然に対する興味を絵で表現することの楽しさを味わってもらうことを目的にワークショップを開催した。

参加した奄美大島の小中学生約20名は、ボクネンさんの助言を受けながらダンボールや画用紙に絵の具を塗ったり、ガジュマルに作品を飾ったりと自由な発想で創作を楽しんでいた。



(3) 夏休み親子「泥染体験」

日時：平成25年8月18日（日）10:00～12:00, 13:30～15:30

場所：田中一村記念美術館 管理棟 参加者数：40名

内容：奄美市笠利町の「工房しまむたび」代表の植田正輝氏を講師に招き、奄美の伝統工芸である泥染の良さや楽しさを味わってもらうことを目的に泥染体験を実施した。

参加者は、植田氏から手順や染め方を習いながら、持参したハンカチやTシャツなどを絞り染めや型染めで思い思いに染めていた。シャリンバイや泥へのつけ方で色や模様も様々に異なり、自分で染めた作品に参加者は大変満足げな表情を見せていた。



(4) 田中一村ちびっ子鑑賞会

日時：平成25年11月3日（日）10:00～11:00

場所：田中一村記念美術館 参加者数：13名

内容：文化の日イベントの一貫で、小中学生を対象にちびっ子鑑賞会を開催した。

学芸専門員が田中一村の作品とバックヤードの説明を行ったところ、美術館に対する関心も高く、学芸専門員の解説を真剣に聞き、参加した子どもや保護者からは質問や感想等も活発に出された。

また、開催中の奄美を描く美術展も鑑賞し、多様な表現方法による作品に興味を持っていたようだ。

日頃、入ることのできない機械室などのバックヤードの見学も行い、美術館をさらに身近に感じてもらった鑑賞会となった。



(5) 田中一村来島55周年記念作品鑑賞会

日時：平成25年12月23日（月）10:30～11:30

場所：企画展示室

内容： 田中一村の奄美大島への来島55周年を記念して作品鑑賞会を行った。

東京時代、千葉時代、奄美時代における一村の生活やそれぞれの作品の特徴について、参加者に対し学芸専門員が詳しく紹介した。また、開催中の「田中一村の写生の世界展」の鑑賞も行い、写生に見る一村の視点や姿勢、本画制作への過程等についても解説した。

学芸専門員から参加者への説明だけでなく、参加者からも感想や質問が出され、一村とその作品への理解を深めることができる鑑賞会となった。



(6) 創作体験教室「人物画講座」

日時：平成26年2月22日（土）・23日（日） 10:00～16:00

場所：企画展示室 参加者数：16名（22日），17名（23日）

内容： 西健吉先生（鹿児島県立松陽高等学校教諭・二科会理事・鹿児島県美術協会会員）を講師に招き、毎年開催している創作体験教室「人物画講座」を開催した。

まず、クロッキーやデッサンにより女性モデルの特徴を捉え、その後、油彩や水彩、パステル等で人物画の作品制作に取り組んだ。受講者は皆真剣に取り組み、西先生の指導を受けながら、一人ひとり個性あふれる作品を仕上げた。

最後に完成した作品に西先生が講評を行い、互いの作品を鑑賞した。



VI 各種イベントポスター <奄美の郷企画事業・自主・共催事業>

奄美パークゴールデンウィークイベント

5/4 (土) あまみっ子フェスタ
 時間：13:30～
 場所：奄美の郷 屋外多目的広場
 出演：Kibito
 ★出陣要員：奄美手舞協会、奄美市レクリエーション協会、レクリエーション
 ★大音大会：出陣要員：奄美手舞協会、奄美市レクリエーション協会、レクリエーション
 ハビカン♥ダンスレクリエーション
 楽しい遊びがいっぱい!!
 みんな遊びに来てね!!

5/5 (日) 第7回奄美パーク わらべシマ唄大会
 時間：9:30～
 場所：奄美の郷 イベント広場
 小学生低学年の部 出場者募集中
 小学校高学年の部
 中学校高学年の部
 中学校の部の部部門別募集

奄美パーク
 〒994-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

梅雨は屋内で遊べる奄美パーク へ行こう!!

けんけんクイズラリー ミッション

クイズラリーに答えてプレゼントをもらおう!!

キミはこのミッションが解けるか?

期間：平成25年5月25日(土)～平成25年6月30日(日)
 対象：小中学生以下
 (参加できるのは上記の日程で一人につき一日一回です。)
 通常のクイズラリーを行ったあと、ケンムンの質問に答える。正解の数から抽選でプレゼントを当たる。抽選結果が発表された後、賞品の受け渡しは別途として奄美パークに集りに来ていただく必要があります。
 ※抽選券はプレゼントでもらえます。
 ※抽選券は、奄美パークの受付で配布されます。→奄美パークの受付で配布されます。

あそびに来てね!

鹿児島県奄美市笠利町節田1834
 奄美パーク
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

B→Matonds ヒーメイトズ

キッズダンス2013 フェスタ

6.16 SUN インパーク

13:30～ 入場無料

HULA KAO STUDIO
 プラカオスタジオ

奄美看護福祉専門学校 介護レンジャー

南郷流 舞踊教室

鹿児島県奄美市笠利町節田1834
 奄美パーク
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

初夏 うた遊び

◎道の島太鼓
 ◎芦槍集落
 ◎ヒギ唄いのし会

日時：平成25年6月23日(日) 13時30分～

奄美パーク TEL: 0997-55-2333
 奄美市笠利町節田1834 FAX: 0997-55-2612

オープニング イベント

奄美パーク

ネリヤカナヤ フェスタ

平成25年7月14日(日)～9月1日(日)

期間中の展示

夜光貝 貝細工 海中写真 海中映像

夏休み親子教室 (各教室定員20名・先着順)

7/21 (日) 12:00-14:00 (雨天中止) 親子自然教室 「リーフの生き物探し」 講師：有馬 隆文

8/4 (日) 14:00-15:00 (雨天中止) 親子手作り教室 「貝殻とサゴで生き物を作ろう」

鹿児島県奄美市笠利町節田1834
 TEL: 0997-55-2333 (通話料別) FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

続の始まりは奄美パークで

しまうたミニライブ

平成25年7月21日(日) 19:30～21:00
 7月27日(日) 19:30～21:00
 8月4日(日) 19:30～21:00
 8月10日(土) 19:30～21:00
 8月18日(日) 19:30～21:00
 9月1日(日) 19:30～21:00

鹿児島県奄美市笠利町節田1834
 奄美パーク
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

奄美群島日本復帰60周年記念 第3回ケンムンふすた

ケンムンっちは、きゃしゃん ようすだりょんかい? (ケンムンって とんちが面白いやう)

あなたのシマのケンムン キャラクター・写真 作品募集!!

ワンも応募しようかい? (ボクも応募しようかい?)

6月10日(月) めっちゃん! 応募要項は奄美パークで配布中

鹿児島県奄美市笠利町節田1834
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

奄美群島日本復帰60周年記念 第3回ケンムンふすた

沖繩(やんばる)も奄美の歴史を交えて

平成25年7月28日(日) 14:00～16:30

鹿児島県奄美パーク 屋内イベント広場

交流イベント
 奄美パーク 奄美市笠利町節田1834
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612
 URL: http://www.amami-park.com/

隆柳勘大と社中の舞

サマコンサート

8月11日(日) 13:30～15:30

屋内イベント広場

奄美パーク
 奄美市笠利町節田1834
 TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612

<わきやステージ in パーク事業>

わきやステージ in パーク

出演者募集

個人や団体の方の成果発表の場、または各自のパフォーマンスの披露の場として、奄美パークのステージを無料で提供する事業です。ぜひ、活用してください！

◆出場資格 / 得点等◆

- 個人・団体、ジャンル不問！
応募していただいた方が主役です。
ただし、児童生徒が学校の教育活動の一環として利用または児童生徒のみで利用する場合は、学校長の承認が必要です。
- 会場使用料・音響機器等の使用料は無料です。
ただし、奄美パークにない必要な道具については出演者自身で準備してください。
- 広間は、ホスターやチラシをいただける奄美パークのイベントで連携配布する施設等へ配布いたします。

◆演出依頼 / 注意事項◆

【演出依頼】「児童生徒」(学校)、「要約者」
「出演者」(児童生徒の学校の教育活動の一環及び個人活動で出演する場合)
注意：人権の侵害及び営利目的の販売等は認めません。
公演結果に及ぼす判断される行為はおりません。

随時受付いたしますが、奄美パークのイベント実施日以外、閉園時間内に限ります。
まずは、電話で出演希望の旨を御連絡ください。

奄美パークのステージで
日頃の練習の成果を披露しよう！
君たちの応募お待ちよ！

詳しくは奄美パークホームページ
(http://www.amamipark.com/ahouse/ahouse.html)
申請・届出書の項目から実施要項をご確認ください。
お問い合わせはお電話にて承ります。

電話 0997-55-2333
FAX 0997-55-2612
HP http://www.amamipark.com
BLOG http://ao129.amamin.jp
E-mail jimv-05@amamipark.com

奄美パーク
奄美市立町前田1834

フィットネススタジオ・サンビーム

ハートフルパーティ♡

♡ 4月20日 (土曜日)
午後 2:00 スタート
♡ 奄美パーク ライフステージ
♡ 入場無料

サンビーム・キッズダンススクールの
お誕生会 です!!

1年間の成長をぜひ観にきてください♪
キッズメンバーのいろんな挑戦をお楽しみに!

主催：フィットネススタジオ・サンビーム
TEL: 0997-55-0108

高嶋長雲会イベント

期 日 平成25年4月21日(日曜)
PM 1:30~PM 3:30

場 所 奄美パーク(奄美の郷 屋内イベント広場)
番55-2333(係 興島 中川)

高嶋会 毎週木曜日 中央公園で練習しています。いつでも入会受け付けています。

大と勤柳隆 舞 社中の

日置幸男 & わらべんきょ

4月28日(日) 午後1時30分
場所 奄美パーク内イベントホール
入場無料

龍郷町島唄保存会

汝 島唄しよる

きょ 我きょ

平成 25 年 6 月 30 日 (日)
13:30 ~ 15:30
奄美パーク屋内イベント広場 入場無料

Chiea Hawaiian Hula Ho'ike

7月9日(土) 奄美パーク
【日時】8/1 (本)
13時30分~
入場無料

前日の7月31日(水) 本広場のMAIひろばでワークショップを開催します。

フラの楽しみ方、セビの演奏の楽しみ方、

- ★ 講師 小島 ちえ (名瀬市立)
- ★ 時間 13時30分 ~ 15時
- ★ 料金 小学生 500円 中学生 1,000円
- ★ 申し込み 080-1777-9554 (おのろふ)

わきやステージ in 奄美パーク

日時 平成25年8月10日(土) 14:00~
場所 奄美パークイベント広場
出演者 大和中学校 3年 永田 莉哉

歌うことが大好きです。
ギターを手に心を込めて歌います。

歌う曲 スピッツのヒット曲
「チューリー」
「空も飛べるはず」

こよみのうえではDecember!

12/15(日)

11時~4時
奄美パーク屋内ステージ

フリマ☆ライブ

日高リョウ
初越パワーズ
マーンズ
エラプチ剛

ボン・ポ・オヤージ
Junk of North
KSR58
笠刺ジャンベクラブ
ビートルズ
R35
and more ♪

問い合わせ 補田090-7984-1226

アマビレ吹奏楽団 AMABILE Wind Ensemble

スプリングコンサート

3月9日(日)
14:00 開場
14:30 開演
会場 奄美パーク屋内イベント広場

～プログラム～
♪ 春のファンクッギー
♪ 花は咲く (風見和郎のコンサート)
♪ のこぎ雲
♪ ど雲をすくはず ほか
♪ アンサンブルステージ

☆ 花ごかて一度は聞いた事がある曲ばかりです!!

団員募集中!
アマビレ吹奏楽団では、一緒に音楽を奏力のパワーを募集しています。風見和郎と一緒に楽器を演奏しませんか?

問い合わせ先:
優悠プラザ 0997-53-4221

Ⅶ 奄美パーク応援隊について

(1) 結成目的

奄美パークの活動を支援し、魅力ある施設実現の一助とし、ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

(2) 隊員数

58名（平成26年3月31日現在）

(3) 年間活動回数（延数）

107回（平成26年3月31日現在）

(4) 活動内容

奄美パーク応援隊は、施設内のガイドを目的に平成15年に発足した。

展示案内ガイド、手熟ガイド、園芸サポーター、一村サポーターという4つの分科会で構成され、それぞれ得意な分野で活動してきており、このうち展示案内ガイドのみ研修が義務づけられている。

隊員には登録証を発行し、年2回以上の活動を義務づけている。なお、登録証は奄美パークのフリーパスになっており、応援隊の活動時以外にも提示することで、施設の有料ゾーンに入ることができる。

応援隊には月に一度、活動の予定や奄美パークの行事予定、活動報告などを掲載した「応援隊通信」を配付している。



(5) 分科会

ア 展示案内ガイド

奄美の歴史や文化、自然、島の暮らし、観光ポイントなどの紹介。田中一村記念美術館における鑑賞のポイントを案内する。（10名）

イ 手熟ガイド

機織りや三味線、太鼓、ナンコ、ソテツ編み等、島に伝わる遊びやモノ作りを通して島の紹介をする。（28名）

ウ 園芸サポーター

奄美パーク園地の植物を管理する。（24名）

エ 一村サポーター

田中一村記念美術館の企画・展示をサポートする。（11名）

(6) 活動実績

ア 展示案内ガイド

月に一度お知らせする来園予定表（団体の予約状況）をもとに、隊員それぞれの都合でガイドを行ったり、個人のお客様に対しても時間のあるときに来園して案内した。

イ 手熟ガイド

三味線など島唄関係が多数で、観光客の見送りの際の実演や民家での三味線実演が好評である。

ウ 園芸サポーター

主に奄美パーク園地への植栽を中心に活動している。

月に1回ないし2回の作業日を設けて園内の整備をした。

応援隊の花壇には様々な植物を植え、レストランから見える場所にはたくさんの花が咲き、お客様からも好評である。

昨年、パッションを植えた棚には潮に強いと言われるニガウリを植えて、たくさんの実をつけることができた。

また、次の収穫に向け、応援隊の花壇にはニガウリとヘチマ、島キュウリ、赤毛瓜の種を播いた。



エ その他の活動

(ア) 六調三線の練習

平成23年3月から有志が集まって、六調三線の練習をし、団体の見送りなどでその成果を披露しており、とても好評である。



(イ) 展示案内ガイドデモ

展示案内ガイドに慣れていない隊員を対象に、ベテランのガイドや職員と一緒に随行案内することで早く慣れてもらうようガイドデモを行った。

また、園内の植物を探索する会なども設け、案内の幅を広げるよう努めた。



(ウ) 今後の活動形態について

分科会の廃止

以前は、あまり得意でない展示案内にすべての隊員が関わるといったイメージが強かったためか、隊員が激減したこともあり、平成18年度からそのイメージを払拭することを目的に分科会を設けていた。しかしながら、分科会によっては活動の機会がなく実績がない状況にある。

この様なことから、再度、活動のあり方を見直し、それぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加すればよいことについても浸透してきているので、平成26年度からは分科会を廃止することとした。

鹿児島県奄美パーク事業報告書

リーフ

第 12 号

2014年4月発行

編集・発行 奄美群島広域事務組合

(鹿児島県奄美パーク)

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

TEL 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612



鹿児島県 奄美パーク

奄美の郷・田中一村記念美術館
鹿児島県奄美市笠利町節田1834

TEL:0997-55-2333 <http://www.amamipark.com/>